

お出かけも仕事も、首都高でスムーズに！

# 暮らしを支える「首都高」を安全・快適に使い続けるために

インターネットで注文した商品がすぐに届く。都内のドライブがスムーズで快適。スーパーやコンビニに新鮮な食品が並んでいる――。

そんな何げない日常の光景が、「首都高」と関係していることをご存じでしょうか。首都高の役割と今後の課題について、首都高速道路株式会社の原隆広さんに聞きました。

首都高は、1962年の初開通以来、首都圏の「大動脈」として、人々の移動や物流を支えてきました。周辺地域と都心を放射状・環状に結ぶネットワークは、いまや総延長約3277キロメートルに達しています。車で通るだけでは気付かずにいられませんが、首都高の使用状況は実に過酷です。日あたりの交通量は100万台を超え、大型車の通行は都内一般道のなんと約5倍。さらに、老朽化も進んでおり、舗装の損傷などが各所で確認されています。2040年には、開通から50年以上経過する区間が全体の6割を超える見通しです。経過年数の長い構造物が増えるにつれて、劣化のスピードも加速していくと考えられます。

## 「高齢化」する首都高 維持管理がより重要に



首都高速道路株式会社 東京西局長 原隆広さん

## 「点検・補修・パトロール」で首都高の安全を守っています

人に例えるとうわりやすいでしょうか。私たちが年齢を重ねると、健康診断で注意などの所見が増えて、こまめなケアが必要になりますよね。道路も同じです。高齢化が進む首都高は、日々の点検・補修といった「維持管理」がこれまで以上に重要になっています。

## 人と技術の融合で安全・安心・快適を守る

適切な維持管理の出発点は、確実な「点検」です。首都高では、日常的な巡回点検に加え、5年に一度の定期的な点検（近接目視点検）を実施しています。また、河川や海の上、トンネルなど、人の立ち入りくい場所では、デジタル技術やロボットを活用しています。ドローンが撮影した映像から損傷をスクリーニングし、必要な箇所だけを人の目で確認するなど、点検の効率化・高度化も進んでいます。



人の立ち入り難しい海上部では、ロープを使った点検も



ロボットやドローンを活用した点検も行われている



補修工事の際は、交通量の少ない時間帯に行き、複数の工事を集約するなど、交通への影響を最小限に抑える工夫をしている

補修工事の際は、交通量の少ない時間帯に行き、複数の工事を集約するなど、交通への影響を最小限に抑える工夫をしている。また、ドローンやロボットを活用し、人の立ち入り困難な場所の点検も進んでいます。

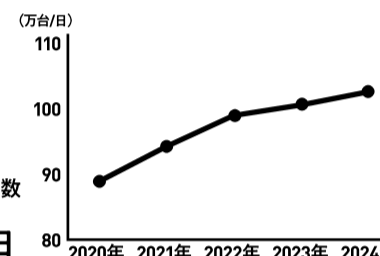
日々、読者の皆さんが首都高を意識することはあまりないかもしれませんが、でもECサイトで注文した商品を受け取る時、その物流を支えるインフラの存在にも、少しだけ思いを巡らせてもらえたらうれしく思います。そして、「安全安心・快適」な首都高を次世代へと引き継ぐために、維持管理の取り組みにも、ご理解とご協力をいただければ幸いです。

## 知っているようで知らない!?

### 首都高のいま

#### 1日の交通量は100万台超

近年も通行台数は伸び続け、年間では約4億台が通行。走行距離に換算すると地球約530周分に相当する。



首都高の1日の平均通行台数

約104万台/日

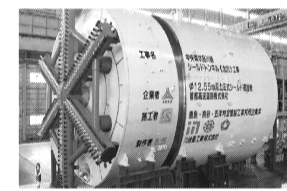
#### 「食」を支える大動脈

農水産品の都区内発着輸送に占める首都高利用の割合は、約58%。首都圏内外の「食」を支える輸送網となっている。



#### 高架橋・トンネルが大半

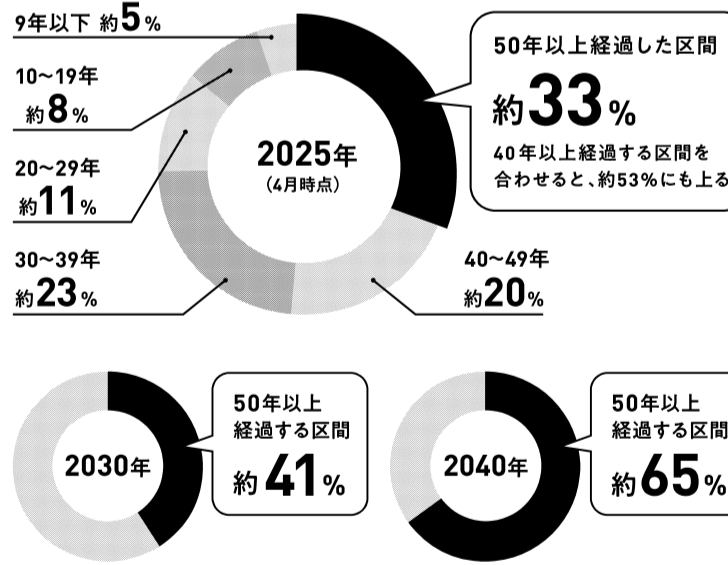
その多くが「街」の中を通過している首都高は、高架橋やトンネルなどの構造物が約95%を占める。そのため、一般的な高速道路よりもきめ細かな維持管理を必要とする。



#### 道路の老朽化が加速

1962年の京橋～芝浦間の開通から60年以上が経過している首都高。2040年には、開通から50年以上経過する区間が6割を超える見込み。

#### <開通からの経過年数比率>



図表は「首都高サステナビリティレポート2025」[中期経営計画2024-2026]より作成

## 「首都高を止めない」強い使命感で次代へ

私が首都高で働く意味をあらためて実感したのは、2020年以降のコロナ禍の時期です。生活必需品や医療物資など、社会を支える「物流」の機能は絶対に守らなければならない。つまり、24時間365日、首都高を止めるわけにはいかない。私たちはその使命感のもと、感染対策を徹底しながら、料金収受や交通管理業務を粛々と継続しました。まさに、「首都高は首都圏の暮らしを守っている」と実感した日々であり、その責任の重さにあらためて身が引き締まる思いでした。

さらに「パトロール」を担う交通巡回隊員の存在も欠かせません。彼らは24時間体制で首都高を巡回しており、事故や故障車、落下物などの異常事態発生時には現場へ急行。その対応件数は、年間約3万8千件(2024年度)に上ります。現場では、警察や消防と連携し、事故車両の移動や車線規制、避難誘導などにあたります。二次災害を防ぎ、円滑な交通を確保するとともに、不安を感じているドライバーたちにも優しく寄り添う。そのプロフェッショナルな仕事ぶりには、いつも頭が下がります。



建物や道路の形状などの3次元位置情報を走行しながら高精度で取得できるシステム(MMS)を活用した定期的な詳細点検

あなたが進む。首都高が進む。

ムービー公開中！ <https://www.shutoko.jp/ss/initiatives/>

